

外国人の保護者を支える人材及びネットワークの構築

1 現状と課題

- 日本に住む外国人の子どもたちにおいて、「言葉の壁」は日本語だけにとどまらない。幼少期に来日し、日本で生まれ育ったが、海外にルーツのある子どもたちの場合、家庭の中だけでは十分な量の母語に触れる時間が取れないなどの理由から、母語にも不安を抱えることが多い。
- 外国人が日本社会の中で苦しむ原因の一つにいじめや差別等「心の壁」がある。その心の壁を取り除き、本当の意味で多様な人々が共に生きる社会を築き、未来へとバトンをつないでいかななくてはならない時代に来ている。
- 県西生涯学習センターでは、これまで多文化共生社会づくりを推進するため、夜間中学をサポートできる人材育成や日本語教育ボランティア等の事業を実施してきた。については、これらの事業により培われた、人材やネットワーク、関係機関との連携を更に発展・拡充し、地域課題解決へ努める責務があると考えている。

2 期待される効果

- 外国人の保護者を支援し、子どもの不就学や学習の遅れ等の解消を促進する
 - ・保護者に対し日本語教育支援が出来る人材を育成し、居住する外国人の方々を包括的に支援できる体制を構築するとともに、保護者を支援することで、子どもの不就学や学習の遅れ等を解消する。
- 多様な外国人保護者への支援ボランティアの育成と、活躍の場の推進
 - ・地域社会との繋がりを支援できる人材を育成し、学校から配布される資料の翻訳や通訳等、市町立小学校等における外国人保護者の支援ボランティアとしての活躍場を提供するなど、外国人家庭への円滑な日本語指導の強化を図る。
- 地域団体との多文化共生社会実現へ向けた協力体制の強化と拡充
 - ・夜間中学をサポートできる人材育成や日本語教育ボランティアの育成事業等、県西生涯学習センターにより培われた、人材やネットワーク、関係機関との連携を強化・拡大することで、外国とつながる子どもの就学支援やキャリア支援、自治体や学校への通訳派遣・翻訳等の取組を促進する。

3 事業実践方法

- (1) 概要(目的)
- 「多文化共生社会機運の醸成に繋がる地域づくり」を目的に、多様な主体を活用した会議等を複数回開催するとともに、課題の選定や目標の設定、活動内容や具体的な実践方法を決定する。
- また、下記の課題の解決に向けた活動においても、専門家の意見聴取やワークショップ、事例調査等、様々な方法により取り組む。
- 保護者への日本語教育支援が出来る人材育成
 - 学校の資料の翻訳や通訳等社会との繋がりを支援できる人材の育成
 - 地域の公民館等での日本語教育支援教室等の設置(学びの場の提供)
 - 家庭教育支援事業の開催
 - 相談サポートの充実(心のケア・心のサポート機能の充実)

(2) 対象者 県民

(3) 委員の構成

所属	役職等
国立大学法人筑波大学 人間系・教育学域	助教授
茨城県スクールソーシャルワーカー	社会福祉士 学校心理士
認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ	代表理事
認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ	
八千代町	地域おこし協力隊 多文化共生社会実現プロジェクト担当
県西教育事務所	主任社会教育主事

(4) 具体的な取組について

① 会議・交流会(議)等

期日	内容	出席者等 ^{※1}
令和4年 8月8日(月)	第1回交流会議 テーマ:支援者像の明確化と必要な支援について ・茨城県に住む外国人の子どもたちの現状や課題の整理等 ・支援すべきターゲットと支援方法についての協議等 ・効果的な研修の在り方とゴールの設定等	実行委員、講師、協力者
9月15日(木)	第2回交流会議 テーマ:「訪問型家庭教育支援」との連携の可能性の在り方について ・市町における訪問型家庭教育支援の現状の把握等 ・外国人世帯への支援と訪問型家庭教育支援との共通点の洗い出し等 ・スクールソーシャルワーカーとの連携による早期支援の実現等	実行委員、講師、協力者
令和5年 2月7日(火)	第三回交流会議 テーマ:プレスクールでの人材の活用と日本語を教えられる場の拡大について ・既存プレスクールでの支援活動計画の策定等 ・専門機関との橋渡し等 ・継続的な仕組みづくりについての協議等	実行委員、講師、協力者

工夫点・留意点

- ・現場の課題・現状を把握するために、スクールソーシャルワーカーを委員として迎えた。
- ・課題や目的を明確化し、支援者として必要な能力を効果的に身につく講座を企画した。

② 研修・ワークショップ・講座等

期日	内容	対象者 ^{※2}
令和4年 11月11日(金)	外国人の子どもたちの現状と課題 ・保護者への支援の重要性 ・茨城県の学校現場における課題 ・課題と対応する支援制度、サービス提供主体を知る	県民 18名
11月25日(金)	外国人の子どもたちの就学促進事業の取り組みについて ・子どもの就学と進学に関する課題 ・国際交流協会に寄せられる相談事例 ・多言語情報の配布と福祉関係機関との連携促進	県民 17名
12月9日(金)	保護者や子どもとの関わり方～コミュニケーションスキルを磨く～ ・関係性の構築と傾聴スキル(相手に寄り添う人材) ・学校と保護者の意思疎通の課題 ・福祉的援助のノウハウと宗教や文化、考え方の理解	県民 16名
12月23日(金)	子どもたちの就学支援の模擬演習① ・グループワークにより、実現可能な外国人の子どもたちへの支援策を企画(目的、対象、手段・方法等)	県民 17名
令和5年 1月13日(金)	子どもたちの就学支援の模擬演習② ・模擬演習①で決定した支援策を実現する為の計画の策定(実施時期、開催場所、人、物、予算、協力者・団体等)	県民 17名

工夫点・留意点

- ・2カ年で実施する課題解決チャレンジ事業の利点を生かし、1年目で日本語支援ボランティアの育成と外国人の子どもたちへの支援策を計画。2年目でその計画を実践することを目標に研修会を実施したことで、受講生がより主体的に、そして具体的に企画し、計画を実施することができた。
- ・計画段階から県西生涯学習センターが関わることで、受講生をボランティア団体として登録するなど、組織化をスムーズに行う事ができた。また、結成されたボランティア団体が実施する計画の広報活動支援や団体へのボランティア派遣など、センターの教育的資源(施設、人材、ネットワーク等)を生かし、支援活動継続への大きな推進力となった。

①講座の様子



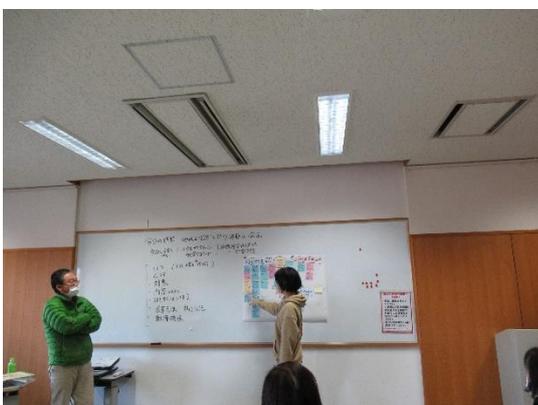
【外国人の子どもたちの現状と課題について】

②ワークショップの様子



【次年度の実践に力に向けた企画会議】

③ワークショップ



【次年度計画の発表及び共有】

④育成団体 フレンズサポーター の活動の様子



【いばらきチャレンジアワードでの発表】

⑤育成団体 広報紙

FREE

**フレンズサポーター
Friends Supporter**

わたしたちは、^{かいがい}海外にルーツをもつ
^こ子どもたちの日々の学習や進学をサポート
^{ひび}するボランティアグループです。

**After-School Study Support
START!!**

ひにちとじかんはそうだんしてね。むりょうです!!
しつもんまってまーす。
したのSNSかられんらくしてね。

にほんごとえいご OK!

LINE Instagram Facebook

Zoom OK!

☒ furesapo2023@gmail.com
☎ 080-9023-6841 (KEIKO)

fun MATH

③ 実践

期日	内容	対象者※2
令和5年 1月14日(土)	市内に住む外国につながる児童・生徒を対象に学習支援 ・在留外国人とその子どもたちへの日本語教育等 ・学校の文書やその他書類等の翻訳等	受講生 4名
1月22日(日)	高校進学・進路ガイダンス交流会 ・日本の学校制度の説明等 ・茨城県の高校入試について説明等	受講生 3名及び実践者
3月11日(土)	日本語を母語としない親子のための「八千代町進学ガイダンス」の開催 ・高校の紹介と卒業後の将来の可能性について説明等 ・説明会における逐次通訳、質疑応答の際の通訳等	受講生 5名及び母語が外国語で、日本で高校受験を検討している中学生とその保護者
4月1日(土)	ボランティア団体 フレンズサポーター立ち上げ ・ボランティアメンバーの募集 ・団体規約の作成 ・生涯学習ボランティアセンターへの登録	受講生 2名
8月20日(日)	多文化共生で進める持続可能な地域づくりイベント開催 ・多文化共生に係る講演会による啓発活動 ・ダイバーシティ推進活動等	受講生 6名及び多文化共生に関心のある方
10月21日(土)	高校進学・進路ガイダンス 説明&質問会 ・高校の紹介と卒業後の将来の可能性について説明等 ・説明会における逐次通訳、質疑応答の際の通訳等	フレンズサポーター及び母語が外国語で、日本で高校受験を検討している中学生とその保護者
11月23日(木)	いばらきチャレンジアワードでの活動発表 ・多文化共生社会実現に向けたボランティア活動の発表 ・多文化共生社会実現への啓発活動及びネットワークづくり	受講生 2名
令和5年 通年	フレンズサポーターでの外国人保護者への支援 ・在留外国人とその子どもたちへの日本語教育等 ・学校の文書やその他書類等の翻訳等 ・外国人による地域イベントへの出店サポート等 ・多国籍の交流イベントの開催等	受講生 2名

改善点や留意点等

- ・ボランティア団体が結成される等、一定の効果は出ているが、地域貢献が活発になるにつれ、センターとして各団体や個人の活動を把握することが困難になっているため、今後の連携の在り方を検討したい。
- ・育成団体や育成人材の地域貢献活動が活発になった事による、効果や成果を測る指標等が必要となっていることが課題である。

<プログラム全体の検証>

・1年目の日本語支援ボランティア育成により、多文化共生社会実現への機運の醸成、そして基盤づくりが着実に出来ていたことが、外国人の子ども達への支援を継続して行うボランティア団体誕生には欠かせない要素であったと考える。

また、これまでの交流会議で得た、有識者や先進的に実践活動を行っている NPO 団体の助言やサポートも不可欠であり、交流会議によって新たに繋がった関係者同士のネットワークの存在もとても大きい。

今回、結成された各団体の活動が継続することにより、生涯学習センターのみならず、あらたな団体や人材を巻き込み、より大きなネットワークを構築することで、外国人の子どもたちや、その保護者が安心して生活できる社会の実現への大きな原動力になることが大きな成果であると考えます。

・センターでは、今回のプログラムで得た成果や課題を、必要とされている地域や団体などへ提供するとともに、新たな人材やネットワーク、関係機関との連携の強化・拡大に関わることで、外国とつながる子どもの就学支援やキャリア支援、自治体や学校への通訳派遣・翻訳等の取組を促進し、外国人の子どもへの不就学や学習の遅れ等が解消できる仕組みの強化を図る。